

令和2年度 第1回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室

日 時： 令和2年10月9日（金） 午後3時～5時

場 所： 青少年スポーツホール2階 大会議室

委 員：出席者13名

友田 研也、中井 二郎、溝口 俊則、吉村 明、増田 昇、小野 達也、
野村 恭子、廣崎 祥子、寫岡 智基、木全 剛司、高橋 大河、佐々木 直樹、
三崎 信顕

欠席者4名

山田 泰弘、馬來 秀樹（志知 治氏代理出席）、中西 光司、森木 和幸

事務局：4名

【富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室】

仲野 仁人（室長）、坂口 公一（室長代理）、加茂 武（副主任）、荒木 亮典

コンサルタント：1名

【特定非営利活動法人きんきうえぶ】

寺田 誠

傍 聴 人：1名

会議次第：1. 開会

2. 委員紹介、会長及び副会長の選出

3. 議事

（1）金剛地区再生指針推進の進捗について（令和元年度）

（2）金剛地区再生指針に基づく取組について（令和2年度上半期）

（3）中・長期的なまちづくりについて

（金剛地区の施設等再整備のあり方検討調査業務）

（4）その他

4. その他

開催形態： 公開

会 議 録： 全文筆記

1. 開会

(事務局：仲野)

- ・開会、議事進行にかかる留意事項の確認等
- ・資料の確認

2. 委員紹介、会長及び副会長の選出

(事務局：仲野)

- ・委員紹介
- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることを報告。
- ・会長及び副会長の選出（設置要綱第4条第1項の規定により互選）。
会長は増田委員、副会長は中井委員に決定。

(増田会長)

皆さんこんにちは。今まで経験したことのないコロナウイルスの色々な行動制約が掛かっております。特に我々の活動の中では、やはりコミュニケーションというのが非常に重要な活動ですけれども、ある意味それが制限されるということで、色々な工夫をしながら対応していかざるを得ない。また少し、1年くらいウィズコロナが続くのかなと。

但し、アフターコロナあるいはポストコロナと言われているのは、ある意味今までと違う新しい生活様式のあり方であるとか、特にコミュニケーションのあり方ですよね。特にケアをしていくときに密接な関係ができてくるわけですが、そういう中でどういうふうなかたちで対応していくのか、ということも大きな課題ですけれども。おそらくスマホであったり、あるいはタブレットの使い方みたいなやつが大きく扱われてくるようになって、変わってくるんであらうと思いますし、新しいコミュニケーションのあり方を模索しながら展開していく。

但し、一方では、ひょっとしたらテレワークなんかが推奨されてくると、地域で使う時間が増えるかもしれないので、これは地域まちづくりについては大きな戦力というんですかね、大きな機会になろうかと思います。公園の使い方也是如此ですけれども、平日の中で新たな時間が地域で消費できると、こういう辺りがひょっとしたら地域まちづくりにとってはプラス側の影響が出ると思いますので、その辺りも踏まえながら議論をしていきたいと思います。よろしくお願いします。

3. 議事

(1) 金剛地区再生指針推進の進捗について（令和元年度）

(増田会長)

はい、それでは今日予定しております議題は、「その他」も含めて4点ございます。前から順次進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。5時を目標に終了したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは議事の最初ですけれども、令和元年度の「金剛地区再生指針推進の進捗状況について」、A3の大きな資料でございますけれども、資料2に基づいて、よろしくお願いします。

(事務局：荒木)

- ・資料2について説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。昨年度の進捗管理ですので、今日は議論する時間がありませんので、お気づきの点があったら事務局の方にご連絡いただければというふうなことかと思います。ある程度順調に進んでいるという理解でよろしいですか。

(事務局：坂口)

はい、それで結構かと思います。

(増田会長)

ありがとうございます。これは別途目を通していただくということで、皆さんに議論いただきたい議事へ進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、2番目の議題ですけれども、「金剛地区再生指針に基づく取組について」ということで、令和2年度の上半期ですね、かなりコロナ禍で制約された中での活動だったと思いますけれども、上半期の活動についてご報告いただければと思います。一旦ざっと事務局の方から、坂口さんと寺田さんに報告いただいて、各プロジェクトに戻って意見交換したいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

(2) 金剛地区再生指針に基づく取組について（令和2年度上半期）

(事務局：坂口、コンサルタント：寺田)

- ・資料3及び、資料4（1. まちづくり会議の活動と今後の方向性について）について説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。書面開催では、自主的に運営をするというのと、時期尚早というのと、市がもう少し事務局機能を担ってほしいという結果でしたけれども、その後ということで、何かこれに関連してご意見ございますでしょうか。徐々に、特にこの最後にまとめていただいている4つの機能をいうと、1番重要な「プロジェクト活動のコーディネート」みたいなやつはかなり動き出していると、自主的に。それともう一つの「情報発信」みたいな話とか、「団体内の連絡体制」、これもかなり運営できてきているというふうなことですけれども、いかがでしょうか。

(友田委員)

私は今、総合まちづくり部会の方をしていますけれども、これは大体メンバーも分かっているし、話の内容もよく分かるし、連絡もやりやすいし、というかたちで運営できているんですけれども、いざ全体、あるいは金剛となると、1万7千人が住んでおられるかなり大きな地域で、それをまとめるみたいなのところっていうにはまだまだいかないし、例えばまちづくり会議のメンバーがどんどん増えてきていると。そして地区の情勢も、まちづくり情勢も上がってきているという状

況になれば、地区全体の会議についての事務局の連絡体制もつくし、人を呼べば集まってくるというかたちになれば、そういう運営も地元の方でやっていくというかたちは割と希望ですし、そうあれば良いと思うんですけれども、まだまだ人が、同じメンバーばかりが議論しているという状態で、そこから更に増えてくるとかっていう状況にはまだなっていないのでね。そのところは、やっぱり今地域だけにパンと投げられたときに、やはり行政が立ってくれているから集まってもらっている部分もあってね、地元からするとそこがまだまだ、情けないんですけど、我々も申し訳ないんですけど、弱いなというところがあって、もうしばらくは全体会のところについては市が頭に立ってもらった方が人は集まりやすいかなと思っています。そして当然部会の方ですね、プロジェクト会議の方、そういったものは我々で声を掛けられるし、そういったものはなるべく我々の方でプランを作り、人も集めてという努力はしていきますけども、全体については、もう少し市の方をお願いできないかなと思います。

それと、ここにプラットフォームって書いているんですけども、今やはりプラットフォームって言いつつも地域の間人ばかりですけども、もっと外部の間人とか、もう少しプロジェクトを立ち上げる民間企業の方々だったり、そういう方々をもっと呼んでいかないとプラットフォームにはならないと思っています。そこまではまだ至っていないですし、そういったことが大体できてきたなど、そしてある程度は任せられるなというような状況までもう少し育ててですね、それからということを私は1つと思っています。

(増田会長)

なるほど。分かりました。他はどうでしょう。

どこもそうなんですけれども、別に市がやっていただいても何ら問題ないんでしょうけど、担当が変わられたりとか、あるいは予算化されなかったりとかして、継続性ということから言うと自主的にやっておく必要があると。

自主的にやっていくときに大きな課題は2つですよ、1つは今仰っていただいたように、担い手がもう少し、多様な担い手がたくさん入ってきて確立されると良いと。それが1つと、もう1つは、やっぱり持続性というところからいくと、どうやってお金を稼いで運営費を賄うねんという、この2つ。

物と人と金からいうと、人と金のところをどうやっていくのかっていう辺りがたぶん、なかなか利益が出るような活動というのはやりづらいでしょうけど、やはり色々な意味で持続性というのは、やはり赤字体制ではなくて、一応要するに収支トントンみたいなかたちで、労賃は出ませんけど、直接必要経費みたいなやつは自分たちで稼げるみたいな話が、ひょっとしたら持続性という、この辺りが課題かもしれませんね。

今日も最後に三崎さんの方から、泉北の大蓮公園の取組なんかもちらっと紹介されるかもしれませんが、そのコンセプトは色々な市民団体が出店みたいなことをチャレンジショップでやるんですけど、やはり持続性ということを見ると、赤字にならない運営の仕方はどうするというような辺りが議論されて、経営という視点を持って取り組みましょうみたいなことが言われている、というような感じでしょうかね。

何か他よろしいでしょうか。よくこういう活動すると、汗を流してくれる人はいっぱいいてるん

ですね。ところがお世話をしてくれる方がなかなかしんどいというので、なかなか誰にでもできるような話ではないので、どうやってその厚みを増していこうかという辺りですね。皆で意識しながら、この辺は市がすぐに撤退するのではなくて、ある意味フォローアップをしていただきながらということになるという、そんなのが友田委員のご発言ですかね。

(友田委員)

そうですね。我々もしっかり努力はしていきますけど、もうちょっと一緒にやるというような時間というものができたら良いかなと。

(増田会長)

そうですね。あとは、今日も事業者の方がいらっしゃいますけれども、できたらもっと事業者の方もこんなイベントなりプロジェクトをやってみたいよねという、持ち込み型のプロジェクトを投げ込んでいただくと、ひょっとしたら活気づいていくのかもしれないですね。

他はいかがですか、どうですか、よろしいですか。

そしたら一応当面今の延長線上の中で、徐々に確立をさせていくというふうな方向を皆さんが望まれているということでよろしいでしょうかね。市の方は逃げないように、よろしくお願ひしたいと思います。

そしたらその次ですけれども、この半年間の活動が活発に行われておりますので、各部会やプロジェクトの取組について、全て話をさせていただいてから、各メンバーに補強的な意見とかをしてもらおうと思いますので、よろしくお願いします。

(事務局：坂口) (コンサルタント：寺田)

・資料4 (2. 各部会・プロジェクトの取組報告等について) について説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。今各活動についてご報告いただきましたけれども、一番前から金剛マルシェについて何か、木全さんですかね、補足的なご説明ございますかね。

(木全委員)

そうですね、正直私はお店がありますので、そのところは、お店の中から見ている状態なので、あまり参加してないんですけれども、最初に書かれてあることについて、僕の主観ですけれども、やっておられる方々の横の繋がりがっているというのは、どんどん広がっているのではないだろうかという感じは受けますね。ただ僕は商店街をやっている人間ですので、集客においては、はっきり言って申し上げますと、ちょっと残念な結果じゃないかなと思います。だから先ほど仰っていた、もっと商業者や事業者が入っていったらというふうに先生仰っていましたし、我々がやっている、今回は中止ですけれども、親子ふれあい祭りのときは約1,200人の人が集まるんですね。このマルシェを見ていると、ざっくりですけど100人来ているか来ていないかというところだと思います、正直申しまして。

ここはもっとテコ入れが必要なんじゃないかなというのと、あと周知作業ですよ。うちのお店に来てくださっているお客様自体が、外で今何をやっているのと聞かれるくらいなので、もうちょっと周知作業をきちんとしないと、運営自体がしんどいんじゃないかなと思いますね。先ほど仰った赤字の出ない運営の仕方、これもやはりきちっと精査してやらないと、しんどいんじゃないかなというふうに客観的に見てて思います。

でもまあ、やっておられる方々は、皆さん非常に横の繋がりがどんどん広がっていて、凄く地域の活動としては、成り立ちとしては、良いことではないかなと思っています。

(増田会長)

今年はコロナの関係でいうと、直売所とか、庭先で農家の方が販売するような庭先直売所とか、そういうところは非常に活性化したんですね。皆さん巣ごもりで家に居る時間帯が増えたりとか、外食をしなくなって家で料理をするようになったから、非常に増えたんですけど、マルシェにそんな好影響は出なかったですか。通常100人くらい来るけど、今回のコロナ禍では300人くらい来たとか、そんな大きな影響はなかったですか。

(コンサルタント：寺田)

実際初回の再開したタイミングでは、チラシをまき直したというのもあって、コロナ明けで大丈夫かなと思うくらいの集客があったくらいなんですけれど、それが7月、8月になると、なぜか毎回マルシェのときにめちゃくちゃ雨と風と寒さが来て、警報が出るんじゃないかみたいなのが、毎月1回なんですけれども、タイミングが重なっていて。前回の9月の開催が、やっと天気をあまり気にせずにつけて感じだったんですけど、正直どれくらいの人に来るのかなっていうのがあったんですけれども、思ってたより来たイメージがあって。2月から5月のコロナの時期っていうのがやっぱりできていなかったの、その頃に再開していたら別のニーズがあったのかなと思うんですけれども、ただ6月開催の時点では、ちょっと思っていたよりも人が来てびっくりしたなというのはありました。

(増田会長)

なるほど。たぶん今の発言の中でも2つほどあって、色々な屋外のイベントっていうのはある意味天候に左右される、そのリスクはあるんですね。だから、本当はどこかで軒下空間というのか、覆屋みたいな、大型テントみたいなやつがあるとかね、そういうのがどこかにあると、比較的安定して開催できるんですね。いつも屋外活動という、天気と、雨に降られてしまうとできなくなったりするので、大きな常設のテントみたいなやつがあると、本当は色々な意味で活動しやすいなと思うんですけれどね。

もう一つは、これ今は非常にチャンスで、地産地消の重要性みたいなことが言われていますので、上手くマルシェを運営していったらどうかと。やっぱり定期的にというか回数が多くなると、日常生活の中でイベントとしての消費で終わってしまうんですね。やっぱり毎週1、2回やられていると、そこで週の買い物が完結するとか、またそんな可能性があるんじゃないかなというのと、もう一つは、今ちょうど富田林市は今年、「都市農業振興基本計画」を作られますよね。その中で

地産地消とか、マルシェの開催とか、軽トラ市というのは非常に重要な展開論だと言われているので、市のその農業政策の中にもきっちりと位置付けてもらうのが良いのではないかなと思うんですけどね。

特にこれを見せていただいて、新規就農の方の野菜販売の場と、これは非常に大事で、新規就農された人ってなかなか売り先がないんですね。やっぱり売り先があって、日銭が少しでも入ると、新規就農する人のモチベーションにもなるので、その辺りの可能性って非常に高いので、本当は赤字になるのはまずいですけれども、本当はもう少し頻度を高くできると、一定のもっと大きな効果が出てくるかなと思うんですけれども。

（野村委員）

私も毎月マルシェの方で珈琲と飲み物の販売をさせていただいて、毎回参加はしているんですけれども、野菜販売の方がマルシェ開催時間の後半1時間くらい、今でしたら4時にしか野菜販売に来られないんです。なので、それだけを目当てに来られてる方は、そのときに来て野菜を買って帰ってしまわれるので、あそこの全体の賑わいということには全然なっていないくて、野菜自体も大分減ってきているので、その辺が野菜中心に盛り上げていきたい部分は凄くあるんですけれども、それができない現状があります。

（増田会長）

なるほど。これは色々なところでお手伝いするんですけれども、マルシェに関しては。農家の人にとっては、時間が取られて売上が上がらない。そういうところでどんなことをお願いしているかというと、3軒4軒で、1人だけが3、4軒分の野菜を集めて売りに行くと。そんな仕組みを農家の方でも作ってもらって、それで順番にやれば、マルシェに行く時間を節約できるんですね。そういう共同出荷、共同店舗的な、何かそういうやり方を新規就農者でもグループを形成されて、今日はAさんが行くとか、その次の日はBさんが行くとか、そんな仕組みができると、一つは労働力の軽減に繋がって、そこは一つ大きなネックなんですね。あまり売上が上がらないのに時間だけが取られてしまうという。

そんな話も一つだと思いますし、もう一つは、前々からよく言っているように、ここで知り合った実際野菜を生産されている農家を訪ねさせていただいて、そこでも買いに行けるような仕組みができるとか、庭先販売ですね、そんな連携みたいなものに発展していってもらってありがたいなと思うんです。今はチャンスだと思っているんですけどね。ある意味、顔の見える関係での野菜の安心さみたいなもの。

他何かございますでしょうか、いかがでしょう。

先ほどもありましたけど、木全さんばかり当てて申し訳ないですけど、金剛バルと今年一体的にされるということで、ここで少し成功モデルみたいなやつができると上手いんですけれどもね。それで農家の人が行ったらある程度収益が上がるようなかたちになれば。

他何かお気づきの点ございますか。いかがでしょう、このマルシェに関して。たぶん今大阪府下でいうと、やっぱりこの南河内の中でも、富田林市というのは農業が先進的だと言われているんですね。その面では、市のバックアップも一つお願いしたいし、本当はこういうのを盛り上げようと

思うとお客さんとして買いに行かないといけないんですね、意識的に。そういう協同関係ができる
と継続していけるんだらうと思うんですけども。

はい、どうぞ。吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

マルシェですけど、僕はいつも行かないといけないと思っているんですけども、土曜日の時間い
つも別の公民館活動に参加しているもので、必ず被っているんです。ですから実は一度も行ったこ
とがない、行けない日なので。今ちょっと仰った農作物のことでは、あっちにサバーファームがあ
るでしょう。あそこはいつ行っても、大体月曜日以外あるので買いに行くんですね。行ったら良い
ものが安く買えると。やっぱり富田林市は農業の面では非常に、そういった面では僕ら自身は得だ
と思っているんですけども、今言われた3軒くらいで一緒に出荷するとか、それか農業政策の中
に入れていただくとか、そういう僕はよく分からないですけども、そういった全体的なシステ
ムがもうちょっとあれば全然イメージが違うかなと。場所近いですからね、ただ、今言ったように
時間の問題も1時間くらいやと仰られたんですけども、それもあるんで、実際にはピンポイントで
行かないといけないということがあるので、利用しづらいなと思ってなんです。そこら辺どういっ
たやり方が良いのか、僕参加もしてないのであまり言えないんですけども、何かそういったもの
があったら良いかなと思います。

6月は僕もお手伝いに行けたので行きましたが、やはり人が多くて、ここまで並んで大丈夫かな
と思ったくらいでしたから、やはりそういうのが周知徹底と言いますか、あるんだなということが
皆さん分かれば、イメージも大分違うのかなと思うんですけども、そういうふうには実は普段思っ
てるんです。はい、以上です。

(増田会長)

はい、分かりました。ありがとうございます。買い物難民という話もあつての対応ということも
ありまして、安全安心という部分もありますし、やっぱり地元の食材というものの見直しもされて
いるし、ある意味追い風ですので、上手くその追い風をどこでどう受けるようにできるのかという
ことを皆で頭を絞ると良いと思いますけれどね。よろしいでしょうかね、はい、三崎委員どうぞ。

(三崎委員)

増田先生のお話もありましたので、泉北ニュータウンの取組について、まあ最後にお話ししよ
うかなと思ったんですけども、関連することが多いので、ここでちょっとご紹介を簡単にさせてい
ただきます。

(増田会長)

ちょっとお待ちくださいね、資料6の最後の、更にその下に資料が付いていますので。

(三崎委員)

資料の最後に、アフターコロナ後の泉北ニュータウンの新たなあり方という資料があります。こ

の資料のきっかけは、アフターコロナというきっかけなんですけれども、堺市の方でアンケート調査をちょうど7月、8月に「泉北ニュータウン再生指針」の見直しということでしておりまして。コロナの視点もけっこう載ってまして、まずはけっこう、今までは駅前の方で買い物に行っていたのが、この近くのマルシェとか地産地消の、泉北ニュータウンでしたら近隣センターのところで売られていて、そこばかりに買いに行くことになって、ほとんど駅前に行くことがなくなったという声もけっこう聞いております。そこの売上もありますし、元々泉北ニュータウンも調整区域のところは、上神谷というところで、ブランド米作ったりですとかお酒を造ったりですね、富田林市さんと同じようにお米とかお酒とか、そういうのをけっこう頑張ってるって、それと市街地の泉北ニュータウンのところで連携をしっかりとっているというような状況です。

あとプラスですね、いわゆる地産地消のものを使ってチャレンジショップですね、先ほど冒頭に増田先生も仰っていましたチャレンジショップを、先ほどの資料の3枚目にあります、Park - PFIという、大蓮公園のところで、写真の真ん中上くらいにお店みたいなのがありますが、元々このPark - PFIをやる前からですね、チャレンジショップというかたちで地産地消の材料を使って、こんな店を出したいけど、いきなり店を作るのは本当にニーズがあるかどうか分からないので、何回かそういうチャレンジをされて、一枚目の下にあるような、ちょうど調整区域のところでけっこうお店がいっぱいできてきているんですね。これは、ここのチャレンジショップをやっている若い人たちとか、けっこうお店を開いてほしいとか、反応が良かったりしているので、さすがにニュータウンの中はなかなかそういう場所がなくて、土地が安いということでこの調整区域の方で色々なお店ができています。こういうお店とニュータウンの方が連携して繋いでいくというかたちでやっております。

あとは更にいうと、3枚目上にありますように、最近キッチンカーですね、これも確かNHKが何かで紹介されていると思うんですけれども、キッチンカーによる取組というのが豊中市の千里ニュータウンにもあります。これは泉北ニュータウンですけれども、他の地域でも広域にやっておりますけれども、元々ここにあるMe11owさんというところは、大阪市内で昼食向けにこういうことをやっていて、やはりアフターコロナとかで家に居れる時間が長いので、そこを上手くチャンスとして、できればこういう郊外の住宅地とかで、夕食とか、昼食でいらっしゃる場合は昼食ですが、そういうところで、Me11owさんはシステム会社さんなので、こういうキッチンカーを取りまとめて、どういう場所にどういう食べ物をもっていか、ということを経営しているんですけれども、そういう取組で農とニュータウンみたいな団地を繋げる仕組みみたいなものができている。こういうのもチャレンジしていくことがあっても、面白いかなと思いました。

あと先ほどご紹介されました東西の連携について、あれ凄く良いなと思っていて、例えば富田林寺内町ですね、コロッケ屋さんとか色々あるんですけれども、そういうのがこちらの方で連携したり、東西の農との連携というのが、そういう軸で系統的というお話というのもありましたけれども、そんな感じになればより良くなるかなと思いました。以上です。

(増田会長)

はい、貴重な情報提供をありがとうございます。これも含めて何かご質問ございますか。

やはり各ニュータウンが色々な意味でもがき苦しみながら、色々なチャレンジをしておりますの

で、色々な情報を得るというのも大事かと思います。

先ほど富田林寺内町が出ましたけれども、富田林寺内町にもまちづくりの担い手をきっちりされている組織があって、これはたまたま都市計画学会で関西まちづくり賞みたいなやつを授与させていただいたこともあるんですけども、今回は見学で良いんでしょうけれども、ゆくゆくはそういうところと交流されると良いでしょうし、旧の町屋を使って、数は多くないですけど、若い人がここに住んで新たなショップ展開をするみたいな、外部からの人も少し入って来ていますので、その辺りも連携されると良いかもしれません。

よろしいでしょうか。そしたらその次ですけど、特に重要な話で言うと、居場所づくりですかね。居場所づくりについては、従来までのロペの活動と、もう一つはわっくですね。わっく金剛ということでご発言いただければと思いますけど。特に拠点づくりは中井さんですかね、今日ご出席いただいている中でいうと。

(中井副会長)

はい、私の方から。元々拠点づくり、居場所づくりということで、誰もが集える場所を作ろうじゃないかということが当初の目的だったんですけども、そのためには場所を常時確保しないといけない、そしてその場所を常時運営していかないといけない、という大きな課題がありました。そこを解決する一つの方法として、まず法人を作った上でこの法人の場所を借りる。それを借りて参加していただく方によって運営していただく、というシステムでできないかということで立ち上げたのが、この「わっく金剛」という一般社団法人です。

空き家を借りるんですけども、空き家を借りるためには、URさんの空き屋を借りるにしても普通の空き家を借りるにしても、個人ではなかなかできないので、法人を作るのが一番手取り早いであろうということでこの法人を作った。ただこれを借りて運営していくのに金がないと運営できませんので、それをどうしていくのかということと、人がいないと運営できない。この2点を解決していかないといけないということで、考えたのがこの次の「わっく cafe」というシステムなんです。

これはどういうことかということ、借りるのは法人で部屋を借りるのですが、その借りた部屋を法人の人間がずっとお守りできない。従って、登録していただいた方に日替わりでその場所のお守りをしていただく。だから半日単位なんですけれども、半日単位でお守りをしていただく。それでいくと1週間ずっと開けていることが可能になる。誰でも話をして帰っていただける場ができると。それがオーナーの制度ですね。なので参加組合員みたいなイメージを持っていただければ良いかと。

同時に、先ほどの運営資金を確保しないとけないので、オーナー登録をしていただくということによって登録料をいただく。その登録料で一部資金に充てる。それとその人たちが、喫茶店やるなり、講演会やるなり、教室やるなり、色々なことをされるわけですけども、それをされるたびにお金をいただく。珈琲類は必ず出してくださいと、その売り上げの半分をいただきますというかたちで、なんとか運営資金を賄えないかというふうにして考えた制度になります。一つは店主になる方、登録していただいて運営していただく、そこから一部お金をいただく。

もう一つは、中に陳列棚みたいなものを作りまして、そこに物を置いて来た人が買って帰る、その売り上げの一部を我々がいただく、というかたちのシステムを考えることによって、日常の維持

管理費が賄えないかなということを考えています。試算していくと、全部埋まれば確実にいけるんですけども、7割くらいまでは通常の運用はできる。ただ初期投資が当然要りますので、そういう改造費とか、URさんの空き家を借りるんですが、その場合は敷金3ヶ月分とか、そういうものを賄わないといけないので、その辺をどうしていこうかというところで、補助金での埋め合わせを考えているのと、設立人が貸付のような、自らいくらか貸し付けし、5年後なら5年後に返していただけるシステムで初期投資を賄おうかというところで、今やりつつあるところです。現実には動いてなくて、できたら2月くらいから稼働させたいなというかたちで今動いております。

それで今、カフェオーナーの方を募集している。それと同時に、これの趣旨に賛同された方に寄付金を募っていこうということで、寄付の募集とこの2つを今現在活動して募っている最中です。以上です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。何かお気づきの点はございますか。これは、ゆくゆくは一般社団法人から公益社団法人になると良いんですけどね。そうすると寄付金の減免措置を受けられるようになると寄付金を集めやすくなるので、少しその辺も展開されていくと良いかもしれないですね。

(中井副会長)

今お話がありましたように、一般社団法人なのは、設立するための時間が一番手っ取り早かったのでこちらでやりました。ゆくゆくは今の税金の関係とか、特に市民税と府民税ですね、これが掛かってきますし、こういうものを減免しようとするのが公益社団法人にしていけないといけない。ゆくゆくはそちらの方に展開していきたいとは思っているんですけども、まあ一気にできなかったというところです。1日でも早く法人を作らないと交渉ができなかったということがあって、今のところは一般社団法人でやっております。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。それともう一つ大事なものは、どういう経営モデルを作るかという、その辺りに取り組まれているというのが大事で、やっぱり何かをやっていくときに、全部の経営モデルの中で、持ち出しばかりでは継続しませんので、ある一定持続できるような仕組みを当初から考えるというのは非常に重要で、チャレンジとしては非常に良い一つのプロジェクトが生み出されてきているのかなと思いますけど。

他何かコメントございますか、いかがでしょう。たぶん今まちづくり会議の大きな役割みたいなものは、こういう活動をどんどん生み出していくという、自分たちが活動していくというよりも、こういう活動がどんどん生み出されていくという、プレイヤーがいっぱい育っていくという、あるいは育てるというのが一つの大きな役割ですから、一つの成功事例に是非なってほしいなと思いますけど。

この頃は色々な寄付集め、クラウドファンディングもございますし、通常の寄付行為もございまして、あるいはこういう登録制の会費みたいなやつで定常的な経費を確保するというやり方があったりとか、あるいは賛助会員みたいなかたちで、ファンクラブみたいなものですね、そういうもの

でお金を少し集めるみたいな話ですね。こういう活動に賛同する人にとっては、賛助会員みたいなかたちで、お金で支援しますよみたいな仕組みなんかもあると良いですね。

(中井副会長)

今の次の画面出していただけますか。今現在皆さんに参加を募っているのがこういうかたちで、まず資金面で応援してくださいと。あとはオーナーになってくださいと。それもできないという方は、例えば今から室内を改装するんですけれども、そういうものをボランティアとして参加してくれませんか。今大きくこの3つの柱を建てて、皆さんにお願いしているんですが、いかんせん広報の力が弱くて、なかなかこれを皆さんにお知らせする機会がない。ここをもう少しやっていかないと先ほどの寄付もそうなんです、集まりづらいというのが現状での課題です。

(増田会長)

たぶん金剛バルなんかが一つのチャンスで、何千人という人が集まられるので、そのときにチラシを配るとか、マルシェなんかのチラシもそういうときに配らないと、どこかに配架していても皆手にとってくれないので、やっぱり一番集客の強いイベントが一つの広報媒体となって、チラシをまくということも大きな戦力になるのかなと思いますけどね。

他何かございますか。いかがですか、良いですか。

そしたらもう一つ、最後が総合まちづくり部会ですね。これは友田さん、溝口さん、吉村さんの辺りですけど、いかがでしょうか。

(友田委員)

総合まちづくり部会ですけれども、コロナの影響でなかなか開けなくて、その間も進めたいということで一回会議メンバー全体に資料作らせてもらって、送らせてもらって、それで意見を聞いて進めさせてもらいました。

そのときにどういう意見が出てきたかという、やはり金剛地区というのは都市基盤であったり、緑であったり、公園であったり、きちんと基盤があるんですけれども、十分に使えていない。やはりそういったものをきっちりと綺麗にしてリノベーションしていけば、美しい空間ができれば皆多様に使い始めると。だからまずはそういうリノベーションをやっていきたいと思います。ただ、どこでもできるかというところとできないので、やりやすいところからどうですかということで、寺池公園と金剛中央公園、その辺から始めてみませんかということで、色々意見を聞かせてもらいました。

更に仲間を増やしたいなというのもありまして、まちづくりサポーターの方が7つくらいの提案を寺池公園に関して出されていて、そこも仲間に入っていただけるとありがたいということで、そういう提案も取り入れながら一緒にやりましょうという話をさせてもらって、集めているということです。

その中で、まずは寺池公園の方から進めていきたいと思いますという話も出てきて、寺池公園については、寺池台の一丁目とか五丁目とか、掃除も割と綺麗にされているんですね。そういった方々とも連携しながら、一部については富田林市側と大阪狭山市側に分かれていまして、大阪狭山市側には草がかなり茂っていて、水辺が見えないというかたちになっているので、その辺とも多少連携しな

が草刈りとかもさせてもらって、水辺が見える空間に手入れをしていきましょうよと。その際に大阪狭山市と協議したり、交流の場として話をする場を設けていきましょうというのが一つあって、その辺を調整した上で、寺池公園について、水辺の見える空間を作っていきましょうということを一つ取り組んでいこうかということを思ってます。

もう一つ、金剛中央公園につきましては、ちょうど今市の方で調査していて、スポーツホールとかグラウンド全体をどうするかという大きな話があるので、その動向を見ていかなければならないなという話があったんですけども、やはり会議を進める中で、例えば芝生化をして青空ヨガを誘致するとかね、そんな色々な事例を話している中で、そういったことをしようとすると、それをプロデュースしている人が影に居られるんでしょうと。するとそういう空間を作っても、そういうプロデュースする方も育てていかないと結局できないんじゃないですか、という話が出てきましたね。すると今ある空間の中でも、例えば社会実験的にそういうものを誘致するようなことは考えられなくはないので、はじめは金剛中央公園については今の調査の結果待ちとなっていたんですけども、そういった社会的な実験のソフト的な部分にも取り組んでいこうかという話に今なってきたというところで、その辺の調整をこれから多少進めて、一つずつ具体化していきたいなという状況になっております。

(増田会長)

はい、他いかがですか。この活動に関して何かございますか。公園の整備に関して、間伐したり伐木したり草刈りしたりというのは、専門家を交えるのも大事ですけど、ある意味3人で議論して、皆でこうしようということができれば、あまり大きな間違いは発生しませんので。よく色々な活動でいくと、木の名前が分からないから何もできないんですとかいう活動の方は非常に多いんですね。植生調査をちゃんとできないと活動できませんみたいなことを仰るんですけども、いやいやそんなことよりも人間の感覚は非常に優れていますから、3人4人で議論して合意に達して、ここはこういう刈り方にしようとか、この木は残しようという合意ができれば大きな間違いはあまりないんですね。

専門家が来て、木の名前をどうやって最初に調査をするのかみたいなのところからいくと、敷居が高くてなかなか一步を踏み出せないんですけども。あんまりそういうことを考えなくても、一人でやると間違いが発生するんですけど、3、4人で議論して、ある一定ここはこんな刈り方しようとか、この木は残しよう、この木は切りましようとかしたら、大きな間違いはあまり発生しません。こんなんですらスタートされたら良いんだろーと思いますけどね。

はい、中井委員どうぞ。

(中井副会長)

私も総合まちづくり部会に入っているんですけども、色々な都合で行けなくて、最近あまり参加していないんですけども、先ほどこちと話をありました一丁目の場合は、公園の清掃を毎月1回はやっています。そのときに野村さんとかに協力いただいて、カフェを出したりしてますけども、総合まちづくり部会の活動内容などを、町会の公園愛護会でしたかね、そこにお知らせする機会がなかなかなくてですね。そういうこともあるので、一回こんなことをやっていますということ

で、連携を取っていく必要があるんじゃないかなと思って、もしくは向こうの意見、愛護会の掃除している人の意見を聞いてみるというのにも必要かなと思うので。一丁目だけじゃなくて五丁目もあるので、その2つは一回聞いてみる必要があるんじゃないかなと思っています。

(友田委員)

会議の中でもそういったご意見が出まして、やはり我々としても皆連携してやっていきたいものですから、そういうのも一丁目、五丁目とさせてもらおうと思います。

(増田会長)

あとはイベントのときに、自分たちだけのイベントと違って、何かやってみたい人いませんかみたいな、プレイヤーを確立していくというのが大事やと思うんですね。はい、どうぞ。

(野村委員)

すみません。次11月1日の日曜日が公園掃除の日になっていまして、そのときは特別に炊き出し訓練を一緒にしましょうという、お祭りも一緒にしましょうということで、五丁目に関しては、色々な模擬店を出して三角公園のところでやられますし、そういうのを見に行かれても良いかなと思います。一丁目の方は普通の公園掃除をするんですけど、1番葉っぱの多いときですので、たくさんの人に来てもらいたいなというふうなことも考えていますし、その後の15日の日曜日にも一丁目のボランティア倶楽部中心でお祭りしましょうということを考えていますので、そういうときに金剛地区まちづくり会議もこんなことを考えていますよということをお話しただければ嬉しいなと思います。

(増田会長)

なるほど。これはあれですか、寺田さん。まちづくりのイベントがあるときに、金剛地区まちづくり会議でこんなことをやってますよ、というようなパネルみたいなのはあるんですか。広報パネルみたいなやつは。

(コンサルタント：寺田)

パネル自体は作っていないんですけども、2月末に市民公益活動をPRする場に、毎年金剛地区まちづくり会議として出展していて、そこで模造紙を大きく使って、こういう活動をしていますというのを作ったりはしているので、紙なので外で掲示できるか分からないですけども、そういう模造紙のものであれば今のところあるんですけども。

(増田会長)

ちょっとやはり何かのイベントのときに宣伝に行けるようなパネルを3、4枚ね、入れパネの中に入れて作っといたら何かのイベントがあるときに掲示できると。そういうのが一つ大事かもしれませんね、今仰っていただいたように。何をやっているのか、なかなか見えないとあれなので。そのときに、金剛地区まちづくり会議に自由に参加できますよみたいなやつも、できたらチラシと宣

伝パネルや広報パネルがあれば、広がりをつけていけるかもしれないですね。今日の資料なんかでも、これを上手くぺたぺたとレイアウトしたら何個もパネルができますから。あまり難しいデザインがどうのこうのというよりも、パワポであるデータを上手くレイアウトすれば綺麗なパネルになりますから。よろしいでしょうかね。

あと最後に防災訓練は何かコメントございますか。いかがでしょう、よろしいですか。

(友田委員)

私寺池台の三丁目の自主防災会を運営しているもので、寺池台小学校区の防災訓練の事務局もさせてもらっています。今年はコロナなので、集めるっていうのはなかなか難しいので、この事務局で連絡会を作ったんですけれども、この連絡会のメンバーでこれからコロナの中で色々な会議なんかも開いていかないといけないから、そのときに受付はどうするんだとか、体調管理はどういうふうにチェックするんだとか、こういうところで例えば熱が出ている方をどういうふうに誘導するのかとか、どういう導線を確認するんだとか、そんなことは基本的なこととして知っておかなければならないだろうということで、特にまずは連絡員の方々が周知しましょう、それからできるようにしましょうというような訓練の場として、それから次のステップとして広げていくというかたちで、まずは色々知らないといけないだろうということで、小規模ですけれども、学校を使わせてもらって、それをやりましょうかという話をしています。

これから色々なところでコロナに対してどういうふうに対応していくのかということが重要になってきて、上手に付き合っていくことになるので、これは大切な訓練かなと思って今取組をしています。

(増田会長)

これはたぶん今風水害でしょっちゅう避難所を開設しないといけないときに、コロナウイルス対策をしながら避難所をどう設営するのかというようなことを、各自治体の方々は物凄く悩まれているんですね。だから富田林市でもたぶんそんな部署の方がいらっしゃるの、ひょっとしたらそういうところから指導に来てもらえるのか。

(友田委員)

一応講演に呼んでいます。

(増田会長)

そうですね、そういうかたちでやったら、今までプライバシーのない、だだっ広い体育館に避難しなければいけなかったのが、やっぱり衝立があって、ある一定の区画があって、プライバシーを守られながら、感染防止しながら避難できるとかいう、そういうのも非常に重要だと思うので、是非とも市から少し支援いただければ。

ありがとうございます。ちょっと予定より時間が伸びましたが、よろしいでしょうかね、2番目の話につきましては。

3番目は、「中・長期的なまちづくりについて」ということで、資料3と5を使ってということ

になるんですかね、説明いただければと思います。

(3) 中・長期的なまちづくりについて（金剛地区の施設等再整備のあり方検討調査業務）

（事務局：坂口）

・資料5について説明。

（増田会長）

はい、ありがとうございます。たぶんダイレクトに直接関わってくる話ですので、興味があるかと思いますが、いかがでしょう。どの施設でも良いんですけど、こんなところが抜けているんじゃないかとか、こういう機能を入れておいてほしいとか。そのようなことがありますかね、いかがでしょうか。かなり網羅的には入ってますけれども。どこからでも、公園でも結構ですし、ピュア金剛跡でも結構ですし、南海金剛駅周辺でも結構ですけれども。はい、吉村委員どうぞ。

（吉村委員）

この前の話し合いでも出たと思うんですけども、特にピュア金剛跡のところについて。これは高齢者及び子育て世代ということになっているんですけども、もう一つあったのが、要するに図書館と言ったら良いのか分かりませんが、例えば中学生だとか高校生、あるいは大学生も含めてですが、そういう学習施設的な、そこで自習ができるとか、そういう場所としても利用ができるものが要るんじゃないかと。特に金剛中学校が前にありますし、駅の近くということでは、大阪大谷大学の学生などの通過場所にもなるわけで、そういう文化的、学習的な設備というのも非常に重要なポイントになるのかなと。そんな意見が確か出たと思いますので、そういうものもやっぱり入れて、特に外に開かれたイメージになりますから、それは凄く大事じゃないかなと。若い人が来るということでは、非常に重要なかなと思いますので、是非それは入るようにしてほしいなと。

それと、金剛中央公園については、この前も議論があったのは、すり鉢みたいになってて、非常に入りづらいと。なんか行きづらい場所になってしまっているんで、野球場というイメージが凄く強くて、そこのデザインをもうちょっとこう、野球ができるということも、もちろん今までの経緯から見たら大事だと思うんですけども、もうちょっとこう、自由に使える広場的なデザインに変えていくということも非常に大事じゃないかと思っていますのと、導入路が今、階段から降りてくるといとか階段の場所しかないんで、団地側からのところを全部煉瓦の花壇みたいになっていたり、向こうからは下のトイレのところからしか上がってくるところがないと。そういうことがあるので、そういうデザイン的なもの、全体がもっと入りやすいということに変えていかないと、非常に使いづらいままではないかなと思いますので、そこら辺、全体のデザインも含めて、基本的なものだけではなくて、必要じゃないかなというのが、この前確か話されたかなと思いますので、その点も是非検討していただけたらなと思います。

（増田会長）

なるほど。分かりました。はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(事務局：坂口)

今の件について、よろしいでしょうか。たぶん吉村さんが仰っていただいたのは、我々の文書としては、生涯学習的な機能として、この中高生の自習室的なものを一つここで、なんですけども、これがここにある方が良いのか、よく似た機能で、金剛中央公園もこんな活動スペースとか交流スペースみたいなものをイメージしているので、両方についてというのは難しいので、これはここにある方がベターだとか、絶対にこちらにあるべきだという意見は、今後また、まちづくり会議の中でいただきたいなと思っています。

(吉村委員)

図書館的なものがあったら良いなと思っています。割とそんな声がありますので。

(事務局：坂口)

そうですね、アンケートとかの中ではけっこういただいている、図書館をどこに持ってくるかという議論は、駅中でちょっとした図書館機能があれば良いなという意見もありましたし、寺池公園の中で、森の図書館と言うんですか、建物ではなくて、森林の中で本を読めて寛げるような森の図書館みたいなものもあって。今ちょっと駅中に図書館的な機能を書いているつもりだったんですけども、ちょっと今日の意見として、必要性和かも含めてどこにプロットできるか考えてみたいと思います。こういう活動スペースとか、こういった生涯学習的な機能の一角を、まちライブラリーとか、出張図書館機能とか、そういったことで補完もできるかなというようには考えております。

(増田会長)

なるほど。小野先生、今色々なところでサードプレイスが必要だと言われていて、その点から何かございますかね。

(小野委員)

はい。やっぱり今まではどうしても、家と職場、あるいは家と学校で、ほぼ生活が回っていたということなんですけども、先ほど、増田先生の方からも、ウィズコロナ、あるいはアフターコロナの状況をどう考えるか、そのイメージをどうするかというのが非常に重要で、そのときにポイントとなるのが、今出たキーワードのサードプレイスと言われるんですけど、第3の居場所っていうんですね。自分の居場所がどこにあるかなってことを考えたときに、家と職場以外にどこにあるんだろうと。

皆さんは例えばこういうところでこうやって話して、色々な知り合いができて、色々なお話ができますけど、今やっぱり引きこもりの問題ですとか、外に出られない人たちの問題がかなり重要になってきていて、だから一方にはやっぱりオンラインで色々できることを増やしていくことが重要なんです。家の中にいながらできることを増やして行って、移動が難しい人なんかもありますから、そういうことは確かに重要なんですけど、そこで終わるのではなくて、やはりもう一つの居場所。社会的な交流をしたり、皆と学び合ったりするような場所を是非作りたいということで、このハードの部分は、そういうことの質をどれだけ高められるのかという視点で私は見ているんですけど

ど。一つはやっぱり色々な、子どもとか高齢者前提ですけど、色々な人たちが暮らす地域なので、色々な人たちがそこにアクセスできるかどうかってところがポイントで、アクセスできるっていうのはハードの面ももちろんそうなんですけど、例えば段差はできるだけないようなかたちでとか、そういう面も重要なんですけど。もう一つは、ソフトの面も非常に重要で、色々な人がいて当たり前なんだよっていうような、そういうのをウェルカムできるような地域になっていくかどうかって、その2つがサードプレイスには凄く重要なってところは感じています。

実は、この辺りでいくと、名古屋の方に南医療生協っていう病院があるんですけど、そこは一つの地域を、病院は病院で中心になっているんですけど、病院だけではなくて、そこがさっき言ったような様々なスペースになって、僕が行って驚いたのは、普通に高校生とか子どもたちがどんどん病院の中に入って行くんですけど、その中に居場所があって、例えば勉強するスペースもあれば、スポーツするスペースなどもあって、そうなってくると、自然とそこに皆が集まって、色々交流ができていって、まさにこれがサードプレイスだなと。で、そこのやり方は、医療生協なので、皆でお金を出し合って作っているんですね。だからさっきちょっとありましたけど、そういう居場所を皆で作ろうっていう気持ちをもっと高めていくと、そういうような、かなり新しい試みができるんじゃないかなっていうことが分かったの、先ほどの地域の方で作るものと、市の方で考えているものを上手くドッキングさせていくことが、一番重要なポイントになるんだらうなっていうことと、そこにソフトをどう乗せていくかっていうことが凄く重要になるんだらうなっていうことで、この辺り、これからはやっぱり質を高めるっていうことと、ユニバーサルで皆が使えるようになることが決定的に重要になりますので、本当に20年後っていうのは、金剛にその辺りが見えてくれば良いなっていう感じがします。

(増田会長)

ありがとうございます。たぶん非常に大事で、思っている以上に不登校生とかいうのも、かなりの比率いらっしゃるんですね、なかなか社会の中で見えてこないんですけど。まあやっぱりそういうサードプレイスの重要性みたいな話と同時に、バーチャルなサードプレイスと、リアリティのあるサードプレイスと、両方次の時代はできていくんでしょうね。あるいは、それが連携して作られていくと。

それともう一つは、ちょうど今の中、やっぱり私なんかは泉北ニュータウンの近隣センターの再生で、今までみたいに商業機能は商業機能だけ、医療機能は医療機能だけではなくて、何らかの意味でのよろず屋さんの、そういう感覚の場所を作っていく、多機能型というか、多文化共生型というか、そういったところが非常に重要なってようなご発言をいただいたのかなと思うんですけど。

他何かございますか。南海さん何かございますか。駅前の辺りとか、どうですか。

(塙岡委員)

そうですね、やはりコロナの時代で、非常に弊社の鉄道利用の方、通勤の方が減られているというのが実情でして、これからまさに住まいに近いところが改めて見直されて、そこで生活される方が増えるっていうのは、我々にとってもそういうビジネスモデルというか、変えていかなければな

らないと、社内でもかなり話題になっていますので。まあ今回、開発ってなかなか色々な問題がありまして、なかなかすぐについていうことではないのかもしれませんが、地域の方々のニーズであつたりとか、ご要望を踏まえながら、一緒に取り組んでいくべきことなのかなと考えております。

(増田会長)

ひょっとしたら家の中でリモートワークはできなくて、地域にリモートワークができるような、そういうスペースがあるみたいな話も、ひょっとしたら次の芽が出てくるかもしれない。

他はいかがでしょうか。公園なんかも少し書き込んでいただいておりますけども、いかがでしょうか。

(友田委員)

やっぱりアフターコロナっていう、そういった大都市郊外のニュータウン。例えば、金剛で言ったら難波まで20分強。こういったところのニュータウンの価値って大分変わってくるかなと思ってらんです。やっぱりテレワークであつたり、サテライトオフィスであつたり、コワーキングとか、そういったところでね、昔よく言った職住近接のかたちも変わってきてね、新しい職住近接っていうのが、物凄く可能性がニュータウンで出てきている。工場がなくてもできる、お店がなくなってもできる、働く場所がなくても職住近接が可能になる。そういう時代になってくるので、それを実現するときに、やはり皆さんがたぶん求めておられるのは、豊かな空間であつたり、緑であつたり、環境であつたり、そことコワーキングスペースを一緒にするとか、すぐに健康とかスポーツにアクセスできるとか、そういう環境だと思うんですね。

そういうことを考えると、金剛中央公園っていうものをね、今、グラウンドがあり、公園があり、そして、スポーツホールの建て替えみたいなのところに、今言われているような機能を盛り込んでいくというようなことをすればね、かなり先導的な、金剛地区の価値を高めるものになるのかなと思ってるんです。ここに対して、どういうものを盛り込んでいくか、そして、その公園の緑とか、そういったものをどういう設えにするのかとか、徹底的にやることをね、まずはリーディングプロジェクトに位置付けるとかして行って、そこを具体的にしていく。そして、それをやるにあたって、やはり公共でしかできない部分っていうのも多々あると思いますし、自分でできることもある、そして民間にも参加していただいて、フィットネスは民間がやれば良いですし、色々なプログラムとかアクティビティなんかは、民間が提供していけば良い。そういうものを作り上げるためのプラットフォームはある程度必要だと思ってるんです。

そういうプラットフォームを作って、その計画を作り上げていくっていう、次のプロセス、そこまでを計画の中に、整備方針の中に書き込んで、どういうふうに進めていくのか、どういうかたちでこれを実現するのかを、絵が描けてからになると思うんですけども、そういったところまで踏み込んだことを考えて、次のステップに持っていきたいと思うわけです。そこまで突っ込んで、議論して書き込んで行って、どういうふう to 実現していくのか、そういうことを我々も見えるように、民間事業者も見えるように、行政も見えるように、そんなかたちまで仕上げていきたいと思っています。

(増田会長)

いかがでしょう。非常に重要な視点で、今までみたいに、ハード整備の箱物行政みたいに見えないようなプラン作りをして、パートナーシップ型で、要するに、小さく生み出して大きく育てるような、育て続けるような、そういうプランみたいなことをやっておかないと、ある意味、箱物行政みたいに、お金ができたからこんなことやりますみたいな、そんなプランにならないようにしないといけないと思いますね。やっぱり、新たな公共事業のあり方みたいなものも含めて提案していかないと、工事中はずっと仮囲いがあって、ある日突然、お金ができたので子育て支援施設ができましたということでは運営できないと思いますので、その辺の書き込みも是非お願いしたいですね。

(事務局：坂口)

はい。今やっているアンケートの中でも、今このプランを示して、どんな使い方をしますかといった視点でも聞いていますし、こういった仕組みでそれを作り上げていくのか、今の段階では何もなかったところを、後半の中でしっかり議論しながら、最終的なまとめには書き込んでいければというふうに考えておりますので、また色々ご意見いただければと思います。

(増田会長)

これに関しては、このメンバーを中心に3回くらいワークショップしていただけるんですかね。

(事務局：坂口)

はい、まちづくり会議のメンバーを中心に。ちなみに1回目はワークショップというか、情報共有くらいで終わったんですけども、1回目は済んでおりまして、この年内にあと2回させていただきたいと考えております。

(増田会長)

是非とも色々な意見を聞いていただいて、ちゃんと盛り込んでいくということが大事だと思いますので、よろしく願いしたいと思います。はい、中井委員どうぞ。

(中井副会長)

今、場所を一つに絞って色々な導入機能を検討されているんですね。それはそれで良いと思うんですけど、あとは付録的になると言う用語弊があるんですが、既にある施設、まあ公民館とか色々あると思うんですけども、特に団地の中には色々な集会所とかがあるんですけども、そういうものと既存の公園、まあ普通に使われている公園ですね。そういうものと今検討している場所に持つてくるためのネットワークみたいなものを、最後にグループ的に考えていただけたらありがたいんじゃないかなと。要は人をここに呼んで来ないといけないんですよ。そのためには、どこからどんなかたちで呼んでくるのかというのが非常に、やっぱりネットワークを組まないと人は来ないと思うんです。それを最後に、今後の検討でも良いし、課題でも良いんですけども、そういったものを付け加えていただけるとありがたいと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうかね。

(事務局：坂口)

はい。今、単体のものなので、仰るとおり、それぞれ回遊性とかそんなことが必要かなと思いますので、最終取りまとめの段階でどのように書き込めるのか、検討させていただきます。

(増田会長)

はい、分かりました。大体よろしいでしょうかね。ちょっとURの志知さん、先ほど拠点づくりのところで、何かご発言があれば、少しいかがでしょうかね。ちょっと戻りますけれども。

(志知氏)

URの志知です。拠点づくりのところで、わっく金剛さんのお話とかが出ておりましたけれども、この後で出てくるようなお話とちょっと区別して考えていく必要がある。ちょっと似たようなお話が並行して動いているというところがありますので、そこでちょっとお話できたらと思います。

(増田会長)

なるほど。はい、すみませんでした。

(志知氏)

ちょっと、折角ですので。色々お話をいただいている中で、URの中でも検討が進んでおりまして、実際にこの空き店舗をですね、地域の活性化のために活用していただくということで、URの内部ではもう整理ができております。これから細部を詰めていくところでございますけれども、色々な法的な手続き等もございますので、さっき2月を目標にと仰っておられましたけれども、できるだけそこに近いかたちで、ご提供できればと思っているんですけども、遅くとも年度内にはなんとか使っていただけるように考えているところでございます。

なかなかストレートには言いづらいんですけども、どこにお貸しするというのが今ちょっと言いづらくて、場所を提供できますというかたちの発言にはなりますけれども、地域のために使っていただく、いわゆるテナントさんに入っていただくというよりも、違うかたちの、例えばこういった拠点づくりのかたちでURとしては提供させていただくと、こういうことで決定しております。

(増田会長)

はい、分かりました。非常に前向きなご発言をいただきまして、年度内にはわっくもスタートできそうということで、ありがとうございます。

三崎さん、先ほどの説明で、話題提供いただけるというのは良かったんですかね、もうちょっと何かございますか、いかがですか。

(三崎委員)

補足としては、アフターコロナということで1枚目の1番最後につけた資料で、今議論している内容の現日程の方を付けさせていただいております。ほぼ出てる内容なんですけれども、友田さんも仰ったように、今がチャンスだというのは同じ考えで、その中でどういうふうに、ただ待つのではなくて、何を具体的にやっていかないといけないのか、そして改めてニュータウンで今まで続けてきた価値なり資産なりですね、基本それをちゃんとブラッシュアップして、今言われるのはデザインとかですね、そういうふうに長いこと居るに相応しいデザインなり空間であったり、それに対する効果であったりですね、今ある資源とか人とのネットワークを活かして、それを磨いていくようなことを考えられれば良いなということで、取りまとめをやろうとしています。議論の途中ですけれども、同じようなことをされても面白いかなと思います。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。同じ郊外に立地したニュータウンという辺りでは共通項があるかと思いますが、是非とも情報をこちらに流していただければと思いますのでよろしくお願いします。えっと、その他を除くところで、一つだけ最後に市の報告があるんですけれども、何かこの際ご発言ございますか。いかがですか。はい、吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

ちょうどこの中で東西交流プロジェクト検討というのでね、普段ちょっと思っていることを言えたらなと。この前も8月に昭和株式会社さんがプロジェクトの説明に来ていただいて。その説明があったときに、やっぱり金剛団地に住んでおられた方が、これまでは富田林寺内町の方ばかりに市はお金を使ってきて、自分たちは捨てられていたんだ的な発言があったりして、僕もこの間、富田林寺内町のことを調べたり考えたりして、こちらの活動にも参加したりしていて、何か断絶的なことはよく感じるんです。あっちはあっちでやっていて、こっちはこっちでやっている。一体としてあまり考えていないというのは凄くあって、僕はこれはまずいのではないかなと思っていました。歴史的に見たら富田林寺内町が市の中心というのは間違いないと思うんですが、やっぱりここに団地ができたということで別の入り口ができてきたと。近代的な入り口と昔の歴史的なものと2つあるというのは富田林市の魅力かなと。

もっと南河内的な農村的なところも残っていますから、富田林市としてはそういう2つの顔、江戸時代的な顔と近代的な顔と、そして農村的な顔を持っているという、この魅力に富田林市の人が気付かないんですね。あっちでお金取ってこっちで取ったとか、そういう感じがこの間に意識あるなと感じましたので、この東西交流プロジェクトは凄く大事なのかなと思っています。だから富田林市がどういうところなのかなと考えたときに、歴史的な部分と近代的な部分、やっぱりもう一回きちっと皆さんが認識できるようなまちづくりとして今後やっていったら、もっと豊かな富田林市になるんじゃないかなと凄く思っていますので、何か喧嘩腰に、向こうばかりとかこっちばかりとかにならないような方向で僕はやっていきたいなと。

富田林寺内町の歴史に関心がある方もたくさん居られて、そういう感じでは凄く可能性のある市かなと僕は感じているので、是非そこら辺は市としても自信を持ってやっていくことが大事じゃな

いかというふうに思っています。ちょっと蛇足的なものですけれども、そうしたいなと思いました。以上です。

(増田会長)

他いかがでしょう、この際ご発言ございますか、いかがですか。はい、木全委員どうぞ。

(木全委員)

すみません、先ほどURさんが拠点づくりのことで仰ったことで少しお聞きしたいんですけれども、空き店舗を貸すような話をされましたけれども、どこに貸すとかそういうことはちょっと明言できませんと仰いましたけど、もう今商店街が空き店舗何店舗かございますが、あとピュア金剛跡ですね。ここに関してもそうなんですけれども、ストック活用からストック再生に変わったと仰いましたよね。そこから何か進展はあるのかなというのが僕の1点質問と、あと貸せない理由というのが明記されていないし、尋ねてもお答えが返ってこないし、たぶんバックヤードの建築基準法的な問題なんだろうなと僕は勝手に思っているんですけれども、そこをクリアしない限り進んでいかないじゃないですか。その点は拠点づくりにおいても重要なことだと思うんですけど、ピュア金剛跡も金剛団地の中心ですよ。分譲であったり、賃貸がある中でもあるし、普通に団地以外の方、久野喜台、寺池台、高辺台にお住いの方にとっても中心的な場所だと思うんですけど、これについて、拠点活用は非常に大事なことだと思うんですけども、URさんはどうお考えなのかなと。今ここでお答えできる範囲で結構ですので、お聞かせ願いたいなというふうに思います。皆もたぶん思っていると思うんですけども、お聞かせ願いたいなと思います。

(増田会長)

はい、いかがでしょう。答えれる範囲内ということでございますので、あまり両肩に力を入れずにご発言いただければ。

(志知氏)

先ほどの南海さんと同様な感じのお答えになろうかと思うんですけれども、ピュア金剛跡に関しては随分こういう場とか、色々な場でお叱りを受けることが多くて、なかなかURの内部でも整理が進んでいない部分がございます。ただ、今回こうしたご意見やアンケートをたくさんいただいている中で、よりちょっと前に進め易いかなと、皆さんの地域の方のご意見、考え方に沿ったかたちの進め方をしていくべきだなということで改めて考えているところでございます。

それがいつ整理が付くのかということとはなかなか申し上げづらいところではございますけれども、決して放置しているということではなくて、前向きに考えているということでご理解をいただきたいと思います。

それと先ほどのコミュニティ拠点に関しては、やれるところからやるということが一つありまして、今活性化に使っていただこうとしている場所は銀行さんの横のところになります。そこが今のところ、一番使いやすいところでございまして、色々な事情がある中ですね、長く募集をしてもなかなかテナントさんが入っていただけないと、そうすると別のやり方でやった方が良いので

はないかと。その辺りを考えつつ、今回の拠点づくりに連携させていただこうというふうになった次第でございます。

他のああいったところ、ピュア金剛跡も含めてですね、それは今後考えていくところでございまして、今は明確にお答えすることはできないんですけれども、1つずつクリアをして、少しでも早くまちのために何か使えるようなかたちでやっていきたいと思っているところでございます。こんなところですよ。

(増田会長)

よろしいでしょうか。

(木全委員)

はい、大丈夫です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。ちょっとコントロールがまずくて、すでに5分オーバーしていますけれども、あと最後「その他」で、市の方から報告事項があるということで、よろしくお願いしたいと思います。

(4) その他

(事務局：加茂)

・資料6について説明。

(増田会長)

はい、何かご質問はございますか。

どんな受注事業者が想定されるんですか。どういう業界のところが出てきそうなんですか。

(事務局：坂口)

業務委託のところですよ。そうですね、施設管理運営や単なるビル管理運営会社ではなくて、コンテンツを一緒に考えていただけるってということで、まちづくり系のコンサルティング系の会社さんとかNPOとかの団体さん、連合体でも良いと思っているんです。常駐して鍵開けという、いわゆるビル管理的な作業プラス、コワーキングをベースとしたコンテンツをしっかりとやっていただけるということで、得意分野を持っているところが連合となって運営していただけると良いかなと思っています。

(増田会長)

なるほど、ありがとうございます。志知さんどうぞ。

(志知氏)

はい、何度もすみません。先ほどの居場所と言いますかコミュニティ拠点と、今回のこの拠点づくりは同じ時期に2つの場所、割と近い場所で動き始めておりまして、どちらも地域のためにというところで、URとしても是非やっていきたいと思っているところですが、何か違いが分かりづらいということがあろうかなと思います。

今ご紹介いただいている方は、市が運営に携わっていただく。先ほどの方は、いわゆる民間団体さんを想定しているところですね。賃貸ショップ跡の方は、約2年半で確定的に一応終わるかたちではありますけれども、先ほどのコミュニティ拠点の方、銀行さんの横を想定しているところは、末永く使っていただきたい。極端にいくと、あそこがある限り地域のために使っていただきたいなと思っています。中身的にはこれから詰めていくんでしょうけれども、あまり重複がないようになってほしいですし、連携性と言いますか回遊性、この辺りは是非あってほしいなと思っているところでございます。以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。何か質問ございますか、よろしいですか。少し違う拠点が2か所同時に動き出すということですが、

(事務局：坂口)

志知さんが仰ったように何となくよく似たものなんですけれども、それぞれ違うかたちのものにしていきたいなと。今わつくさんがやろうとしているものと良い連携ができればと思っていますので、相乗効果や回遊性とか、2つの居場所を創り出していけると良いなと思っています。また色々ご助言をいただければと思います。

(増田会長)

はい、よろしいでしょうか。それでは今日予定しておりました議題に関しては、大体意見交換できたかなと思います。少しまずくて15分ほど延ばしてしまいましたけれども、お許しいたいて事務局に進行を返したいと思います。

4. その他

(事務局：坂口)

今日はお足下の悪い中、長時間会議に参加いただきありがとうございました。

最後に今後の予定なんですけれども、次回の協議会は3月に予定しております。日程の方は改めて調整させていただきます。あり方調査の進捗ですね、アンケート調査をしたり、ワークショップをしたり、内容の共有でありますとか、報告にもありました2つの拠点というのがその頃になると動き出しているか、動き出しそうだということになると思いますので、その辺のところも進捗を含めて良い報告ができればなと思っております。よろしくお願いいたします。

あと金剛マルシェとバルは、11月のコロナの中ですが、対策を実施しながら開催しますので皆さんもご参加、ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局の方からは以上です。ありがとうございました。

(増田会長)

そしたら今年度第1回目ですけれども、協議会を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

以上